

SYNERGY XD Clinical Case Report

「右冠動脈びまん性病変に
SYNERGY XDが有効であった1例」

札幌東徳洲会病院
副院長・循環器内科部長
山崎 誠治先生



症例: 80歳 男性

主訴: 呼吸苦

現病歴: 呼吸苦で当院に救急搬送となった。来院後、心不全(HFrEF)の診断で当科コンサルト。

既往歴: 糖尿病、脳梗塞、COPD

家族歴: 特記事項無し。

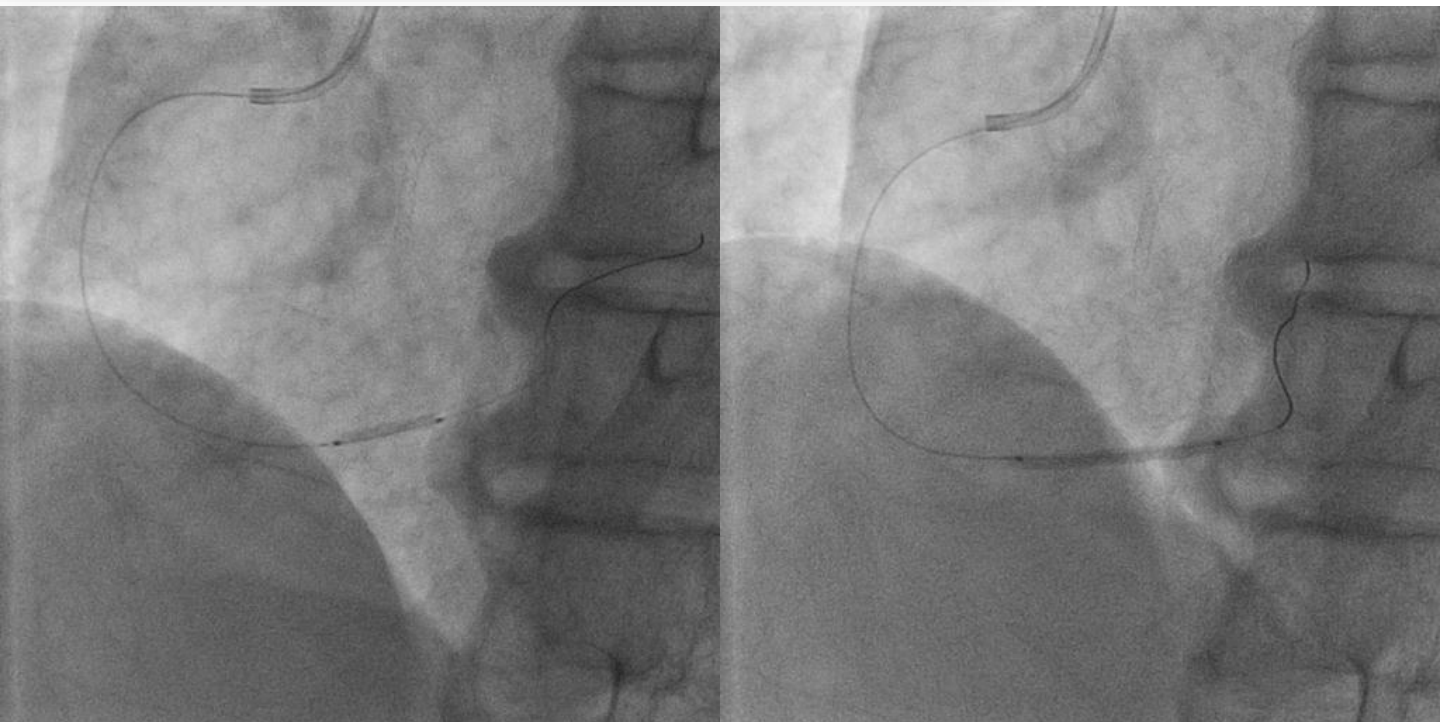
検査データ: Hb 10.3 g/dl、eGFR=42
EF=46%

入院第5病日、心不全精査目的でCAG施行したところ、3枝病変を認めた。COPD、脳梗塞の既往あり、手術リスクが高いことから、ハートチームカンファレンスで、PCI方針となり、ご本人・ご家族の同意を得た。2期的にPCIとした。DAPT開始し、入院第15病日、RCAにPCIを行った。

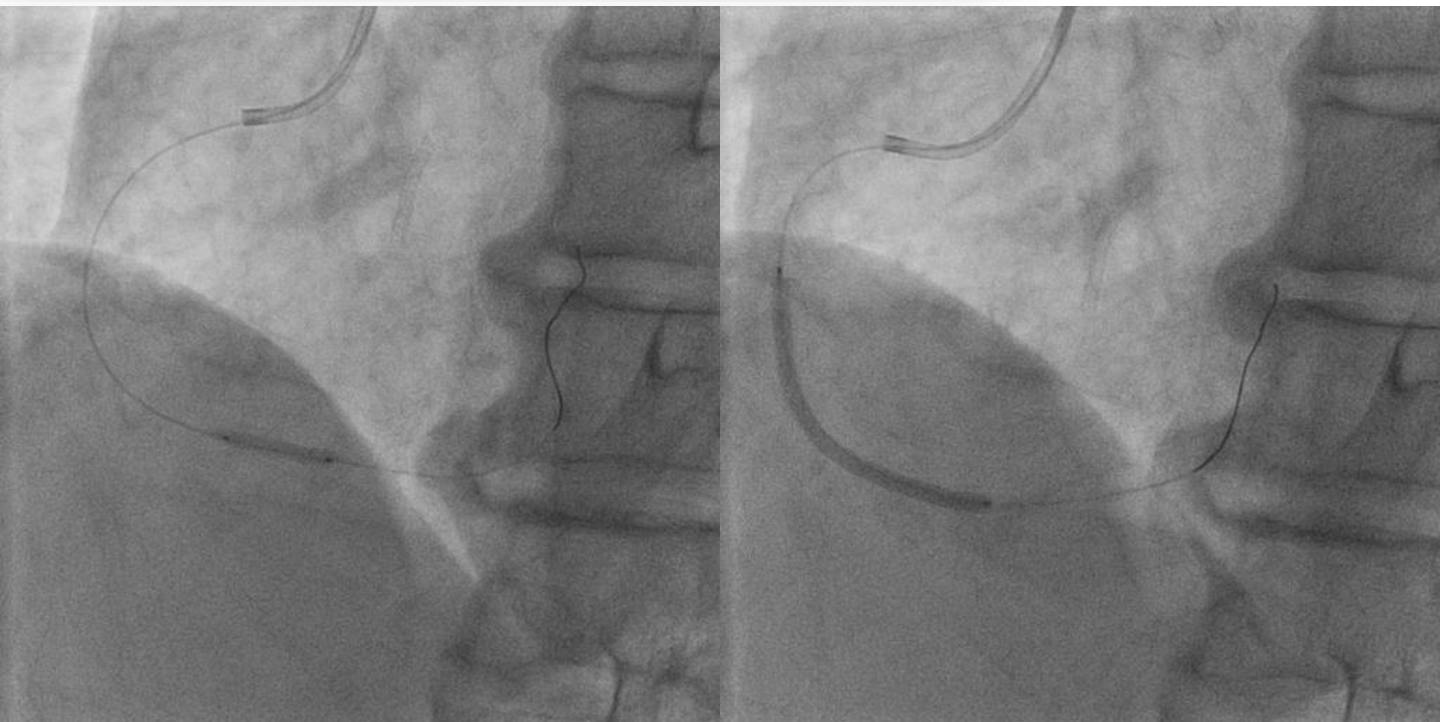
SYNERGY™ XD
Everolimus-Eluting Platinum Chromium
Coronary Stent System



PCI時の右冠動脈造影である。びまん性に病変認め、屈曲も強い。IVUSで病変確認したところ、#4PDは血管径が2.0mm前後であり、ここはDCBで治療とし、#1から#3にはDESを植え込む予定とした。



RCA末梢(#4PD)は、2.0mmのballoon(NC Kamui 2.0x15mm/10atm)で前拡張し、DCB(SeQuent Please NEO 2.0x30mm/8atm/30sec.)で拡張した。

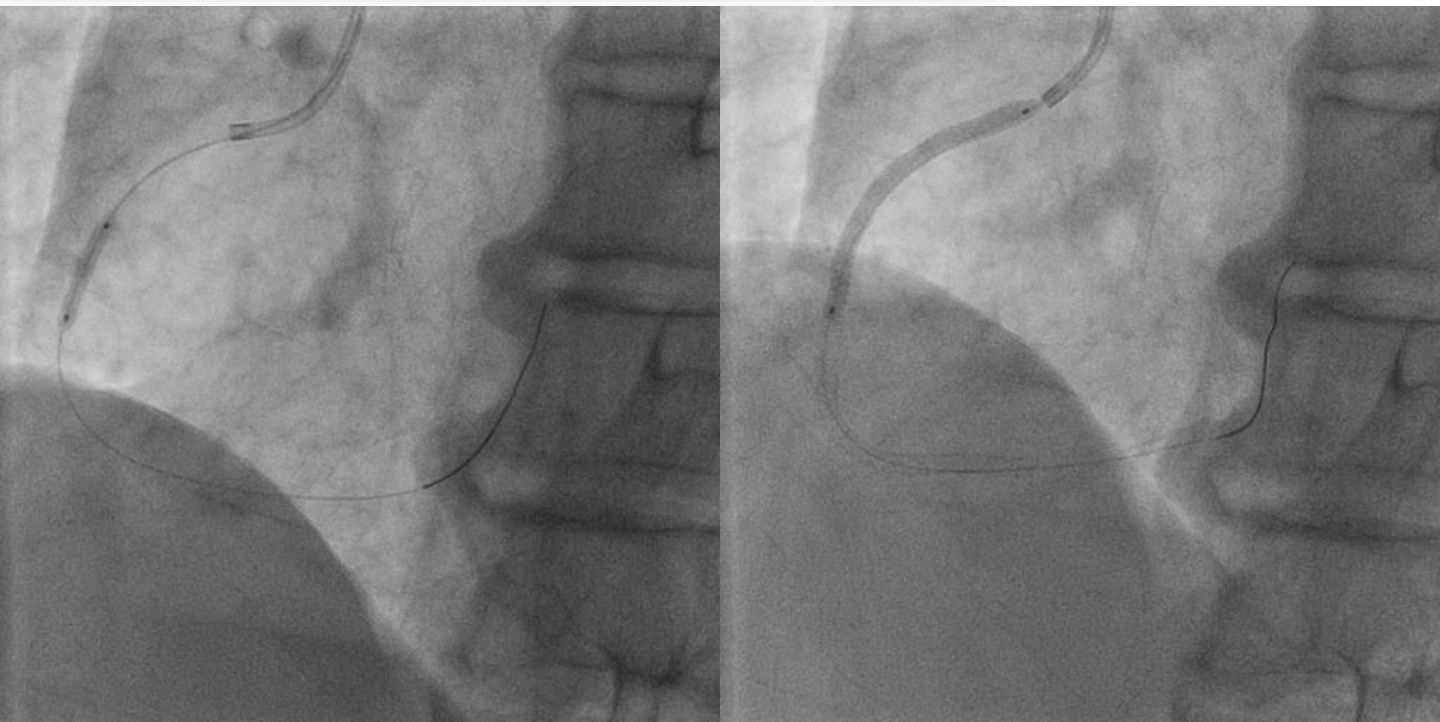


#2-#3までは、前拡張(NC Kamui 2.5x15mm/12atm)後、SYNERGY XD 2.5x48mm/16atm)を植え込んだ。デリバリー時の抵抗もなく、容易に持ち込めた。

SYNERGY™ XD
Everolimus-Eluting Platinum Chromium
Coronary Stent System

IC-1131708-AA

© 2021 Boston Scientific Corporation. All rights reserved. All trademarks are the property of their respective owners.

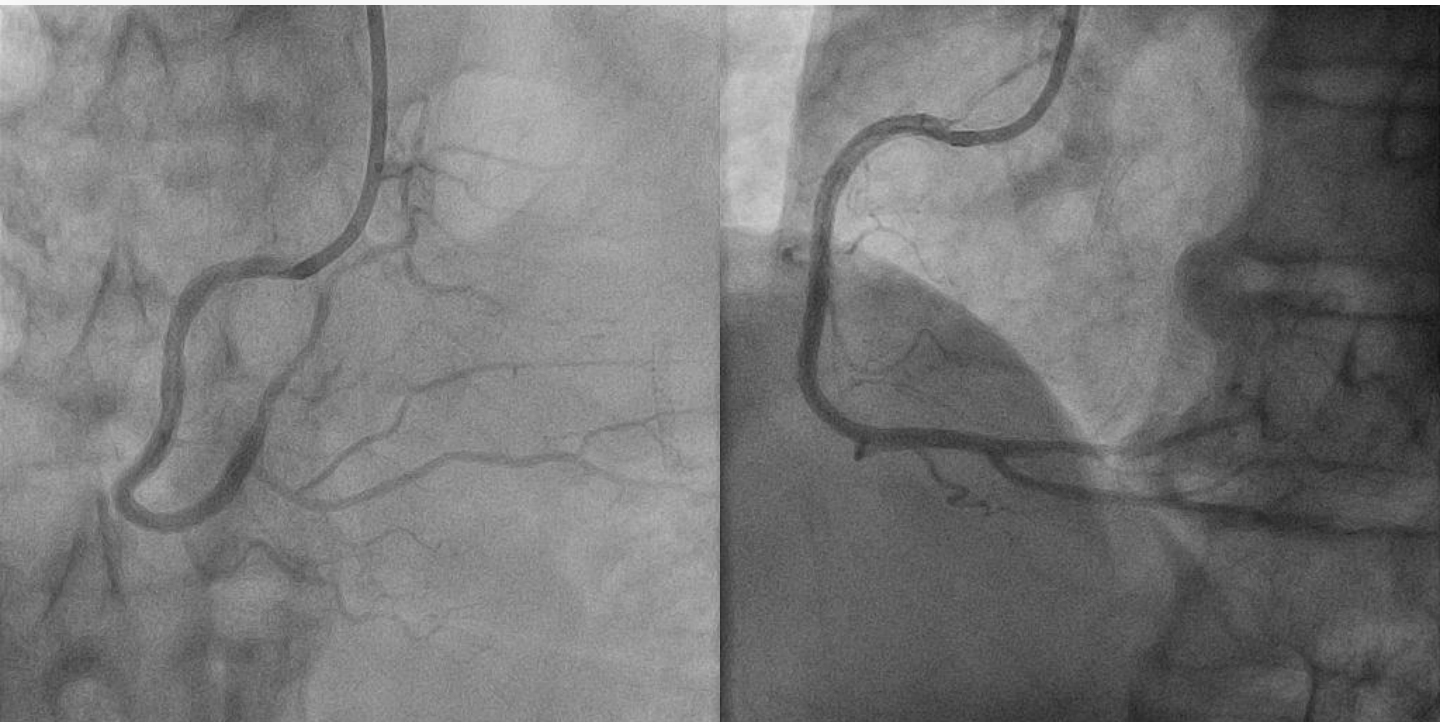


#1-#2までは、前拡張(NC Kamui 2.5x15mm/18atm)後、SYNERGY XD 3.0x38mm/16atm)を植え込んだ。この持ち込みも極めてスムーズであり、抵抗は全くなかった。いずれのステント留置時も、20秒3回拡張を行った。

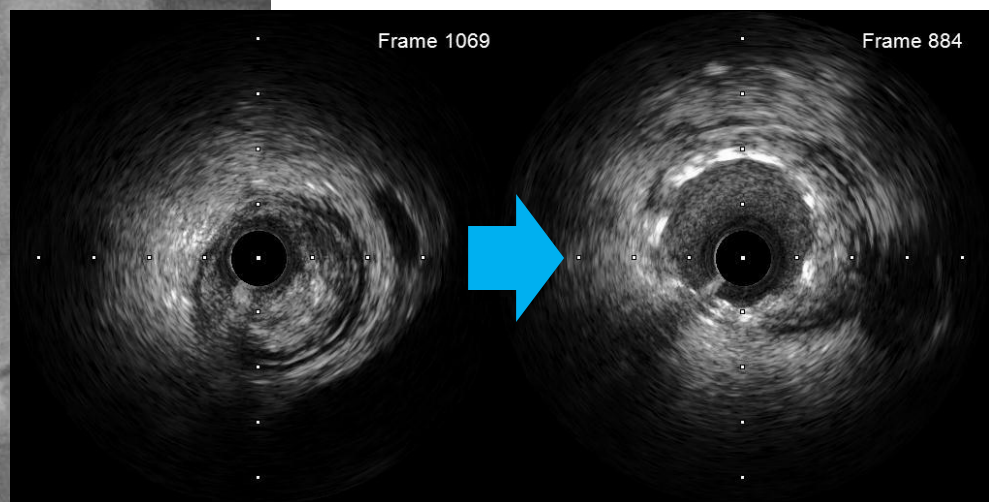
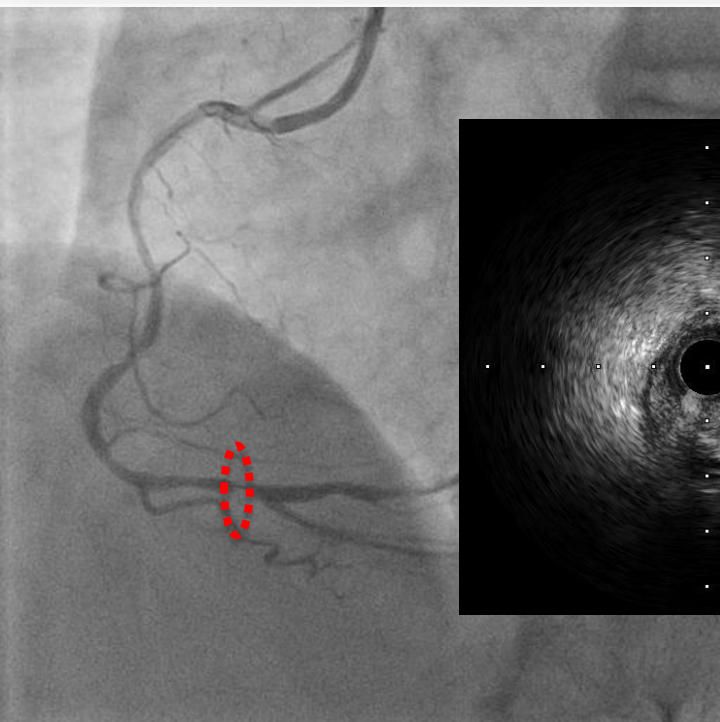
SYNERGY™ XD
Everolimus-Eluting Platinum Chromium
Coronary Stent System

IC-1131708-AA

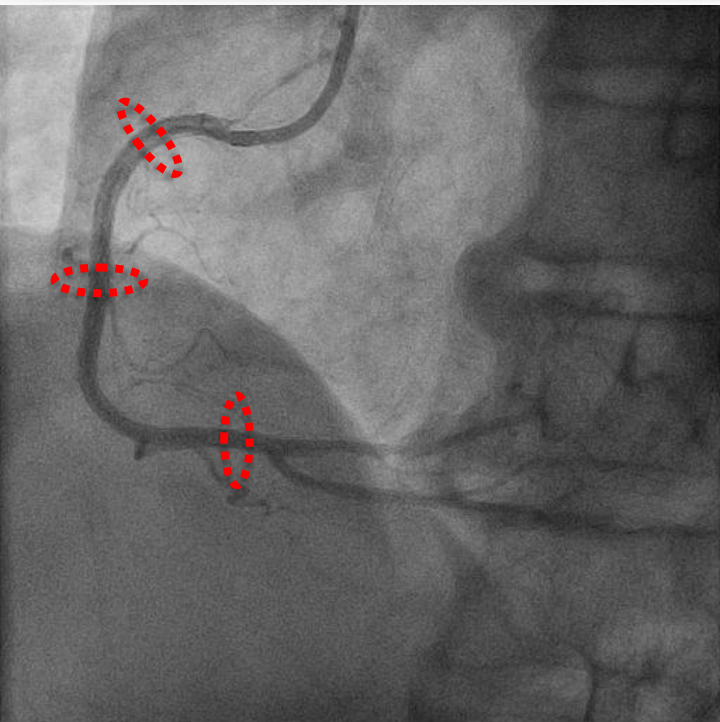
© 2021 Boston Scientific Corporation. All rights reserved. All trademarks are the property of their respective owners.



最終造影であるが、DCB部分は、軽度の解離みとめるものの、SYNERGY XD留置部分は、拡張良好であり、flowも十分であった。



#3の病変のステント留置前後のIVUS像の比較である。
偏心性の一部石灰化は軽度の線維性プラークであるが、
2.5mmの内腔がしっかり確保されており、ラディアル
フォースの高いステントであることが分かる。



ステント留置後のIVUS像である。
どの断面もほぼ正円に拡張され
ており、圧着も良好である。



SYNERGY™ XD
Everolimus-Eluting Platinum Chromium
Coronary Stent System

IC-1131708-AA

© 2021 Boston Scientific Corporation. All rights reserved. All trademarks are the property of their respective owners.

考察:

SYNERGY XDの利点

①通過性能が高い

今回の症例は、びまん性病変で、屈曲も強くデリバリーに難渋するケースである。これは長いステントであればあるほど懸念されるが、SYNERGY XDは、48mmサイズでも問題なく病変に到達できた。

②優れたラジアルホースとコンフォーマビリティ

本症例は、石灰化は軽度であるが、偏心性の線維性プラークであり、またRCAによくある屈曲の多い血管であったが、造影上もIVUS上も、ほぼ正円に拡張できており、十分なラジアルホースとコンフォーマビリティを持つことが実証できた。

③視認性に優れている

今回、2本のSYNERGY XDを使用した。位置決めやover-lapさせる場合にステントの視認性は重要であるが、50歳を超えた術者にも、ステント強調モード(ステントブーストなど)使用せずとも、手技可能であった。